


# 提 言

『しまなみを世界のサイクリストの聖地に』

～しまなみでサイクリングの世界大会を～

平成 23 年 12 月

 愛媛経済同友会

しまなみ委員会

## 提言にあたって

瀬戸内海を優美な橋でつなぐ「しまなみ海道」、エメラルドグリーンの海に点在する島々、その美しは誰もが認める、世界に誇れるものです。我々経済同友会は、このしまなみの美しさを何とか世界に発信できないものかとの思いから、平成21年度にしまなみ委員会を設置してしまなみ海道の活用方策についての調査研究を2年間に渡って行ってまいりました。その結果、平成23年4月に提言書「しまなみ海道の活用について～地域の活性化と持続的発展を目指して～」として取りまとめ、県及び今治市に提出したところであります。

この提言書では、しまなみのキーワードとして、“ゆったり、ゆっくり”を掲げ、多島美を満喫しながら島々を回れる「ゆったり、ゆっくり」がモットーの自然回帰型ルートであり、人間性回復ルートであるとして、島々を巡るクルージングの運行、地域資源を活かした多様な観光商品の提供、また、しまなみ地域の発信力の強化などを盛り込んでおります。

しかしながら、この提案が盛りだくさんで、ある面、焦点が定まらなかったといったことから、今年度は、「しまなみ」の持つ素晴らしさを世界に発信するためのイベントに焦点を絞り込み、今年度、当委員会において引き続き議論を重ねてまいりました。

その結果、近年の自転車ブームによりサイクリング人口が増加する中で、しまなみ海道はサイクリングコースとして人気が高まっていること、今では、全国のサイクリング愛好家から「サイクリストの聖地」と言われるまでになっていることなどに着目して、サイクリングの世界大会の開催を提案することといたしました。

一方、中村愛媛県知事が、いち早くサイクリング世界大会の開催を表明され、現在、開催に向けて精力的に取り組んでおられることは、我々経済同友会にとっても、大変心強く感じているところであり、成功に導いていくため全面的な協力を行っていききたいと考えております。

サイクリングを通じて、しまなみの素晴らしさが世界の人々に発信でき、引いては、しまなみの活性化につながることを願いつつ本提言を行うものでありますが、関係機関及び関係者各位におかれましても、本提言の実現に向けての暖かいご支援、ご協力を頂ければ幸いに存じます。

平成23年12月

愛媛経済同友会

代表幹事 鈴木欽次郎

代表幹事 森 一哉

しまなみ委員会

委員長 関谷 勝嗣

## 1. しまなみとサイクリング

しまなみは、島々に架かる素晴らしい橋、その架橋にかかった技術力、橋を含めた瀬戸内海の箱庭のような美しい風景、地元の人々のあたたかいおもてなしの心、急流にもまれて身の締まった魚介類やきらめく日差しと潮風を受けて育ったかんきつに代表される食など、訪れる人にとってさまざまな魅力のある地域である。

いよぎん地域経済研究センター（IRC）では、平成 23 年 8 月、来島海峡大橋において自転車・原付自転車の通行量調査とサイクリング客に対するアンケート調査を実施しているが、その結果によれば、サイクリングを行う人たちに、しまなみサイクリングの魅力を尋ねると、「景色がきれい」、「海の上（橋）を走れる」、「自転車道や設備が充実している」、「走っていて気持ちがいい」、「地元の人が優しい」、「美味しいものがある」などの答えが返ってきている。しまなみサイクリングにおいては、「しまなみ」そのものを十分に満喫したともとれる回答であり、しまなみの魅力＝しまなみサイクリングの魅力と言えよう。また、回答者全員が「また来たい」と答えており、リピートが期待できるだけの魅力を持っていることも明らかになっている。

## 2. しまなみサイクリングの現状

近年の自転車ブームによりサイクリング人口が増加するなかで、しまなみ海道はサイクリングコースとして人気が高まっている。自転車雑誌が国内のサイクリングコースの特集を組む際には、必ずといっていいほどしまなみ海道が取り上げられている。また、テレビにおいても、しまなみ海道を自転車で渡るシーンはたびたび放映されている。

そのようなメディアによる宣伝効果に加えて、実際にしまなみを走ったサイクリストのロコミにより、その素晴らしさが広まり、今では全国の愛好家がしまなみに注目、「サイクリストの聖地」と言われるまでの好評を博している。

土曜日や日曜日などの休日だけではなく、平日にも自転車でしまなみ海道をサイクリングする人は多い。レンタサイクルなどの環境整備効果もあって、気軽にしまなみ海道を訪れサイクリングを行う人が増加している。

## 3. 世界のサイクリング事情

世界で行われている大規模なサイクリング大会について、いくつかの事例をあげる。

### （1）バイク・ニューヨーク

巨大都市ニューヨークを縦断する全長 42 マイル（67km）のイベントで、毎年 5 月の第 1 日曜日に開催されている。世界中から 3 万人以上のサイクリストが参加するイベント。

マンハッタン島の目抜き通りをはじめ、普段自転車が走行できない有料高速

道路まで自動車を遮断して自転車に開放している。ただし、大会開催時間中全て自動車交通を遮断するのではなく、最後尾の自転車が通過した直後に規制を解除するので、混乱などはあまりないそうだ。警察官も自転車で警備しているが、はるかに多くのボランティアが警備や誘導を行っている。

#### (2) ケープアーガス・ピッキングベイ・サイクルツアー

毎年世界各地から 4 万人近くのサイクリストが参加する大規模なイベント。ケープタウン市街中心部から、ケープ半島の西側を回り、喜望峰自然保護区を通過、半島東側から絶景で有名なチャップマンズ・ピークを通過して、ケープタウン市街に、戻ってくる全長 109km のコースで開催される。一般参加枠は 3 万 5 千人。

#### (3) OCBC サイクル・シンガポール

地元銀行 OCBC がメインスポンサーとなって、シンガポール市内の F1 が開催されるマリーナベイ地区を中心にした公道で開催されている。1 万 2 千人以上の参加者を集め、コースは参加者のクラスによって、5km から 50km にまで分かれている。

### 4. 受け入れ体制

全国のサイクリストから注目を集めているしまなみであるが、その受け入れ体制について、現状をみると、まだまだ改善すべきところが多々あるように見受けられる。将来にわたってしまなみを世界のサイクリストの聖地にしていくためには、まずはこうした受け入れ体制の整備を図っていくことが重要である。

#### (1) サイクルトレイン

NPO 法人シクロツーリズムしまなみが、今年度 4 月～11 月まで、毎月 1 回日曜日に 1 往復合計 8 往復を企画し、JR 四国が運行した。1 便当たり 30 台の枠数に対し、毎回完売と人気は高かった。運行時間は、松山発 7:33、波止浜着 8:48、波止浜発 17:44、松山着 18:50 であった。(10 月 16 日のしまなみ海道サイクリング大会時のみ松山早発)

考えられる課題としては、月 1 回の運行という運行頻度の少なさであると考えられる。例えば、しまなみ海道を往復しようと考えた場合、現行のスケジュールでは日帰りでの往復は難しいと考えられる。また、雨などの悪天候の場合を考えると、できれば毎週土日の運行が期待される。そうすることによって、サイクリストの利便性は格段に高まることになると考えられる。また、本州側から来たサイクリストも松山までの交通・自転車運搬手段が確保されることから、日程が組みやすくなることによる来訪者増加が期待できるのではないだろうか。

## (2) 自転車専用道の整備

自転車専用道については、橋の側道部分および橋への取り付け道路部分が自転車専用となっている。しかし、その他の島内道路については専用道ではなく、一般道となっている。

サイクリングルート上の一般道については、狭い部分や、通行量の多い部分などもあり、自転車にとって危険を感じる場合もある。また、自転車専用道、一般道ともに路面が荒れている個所もあり、安全性確保の面からも早急な整備および補修が求められる。

## (3) 案内標識の整備

案内標識に関しては、「わかりにくい」、「少ない」と言った声がサイクリストから寄せられている。広島側では、サイクリングルートを示す路側のブルーラインがあり、同様のブルーラインを愛媛側にも求める声があった。

案内標識が小さかったり、表示がわかりにくければ、歩行者に比べてスピードが出ている自転車は、標識を見落とす可能性が高く、道を間違ったり、道に迷ったりするケースもあると考えられる。歩行者目線も重要であるが、それに加えてサイクリスト目線でのわかりやすい案内標識整備が望まれる。

## (4) 本格的イベント

現在、しまなみ海道地域で行われている主要イベントは以下の通りだが、国内イベント、地域イベントのレベルであり、世界に発信できるような大規模なものは行われていない。このようなことから、今回、当同友会としては、世界各地から多くの人々がしまなみを訪れるきっかけとなるような本格的なイベントとして、しまなみ海道を活用した世界的なサイクリング大会の開催を提言するものである。

### ① 瀬戸内しまなみ海道スリーデーマーチ

9～10月の金～日曜日の3日間開催。しまなみ海道に10～40kmのコースを設定。今まで11回開催で、平成23年には5,800人弱の参加者。

### ② しまなみ海道サイクリング大会

10～11月の日曜日開催。25～100kmのコースを設定。今まで13回開催。参加者は約1,000人。

### ③ しまなみ縦走

3月の土～日曜日開催。スタンプラリー通過点を各地に設け、どこからでもスタート・インできる形式。簡単に当日参加できるシステムで、今まで14回開催されており、毎年約1,500人が参加。

### ④ サイクルモード しまなみアイランド

9月～10月の土（イベントデー）～日曜日（サイクルデー）。尾道市の向島運動公園をスタート・ゴールとする80～190kmのコース。東京・大阪で行われているサイクルモードのしまなみ海道版。参加者は約1,500人。

#### （5）その他

その他、サイクリング大会を開催する場合に問題となるのは、参加者が一堂に会する会場、さらには、駐車場及び宿泊施設などをどのようにして確保するかである。これらの問題についても、開催に当たっては、十分留意する必要がある。

### 5. 実現のための方策

先般、中村愛媛県知事が表明されたように、県が率先してしまなみサイクリング世界大会に取り組もうとしていることは、当愛媛経済同友会しまなみ委員会としても大変心強く感じている。そこで、大会を成功に導くためには、もちろん受け入れ体制にかかる課題の解決は必須であるが、そのためにも以下の方策が必要であると考えられる。

#### （1）官民一体での取り組み

公道を使用する大規模な世界的サイクリング大会を開催するとなれば、まずはしまなみ海道を通行止めにするのが不可欠となってくるが、その際、何よりも官民が一体となった取り組みが必要となる。一時的な交通制限のための道路使用許可など、特に大規模であればあるほど交通制限の影響が大きいので、官民が一体となって許可取得および企画運営が必要になる。

また、大会開催の周知徹底や、スポンサー集めなどにも、官民が一体となって取り組むことが求められよう。

#### （2）広島側との緊密な連携

しまなみ海道は愛媛県今治市と広島県尾道市を結んでいる。先般広島県の湯崎知事と愛媛県の中村知事が合意したように大しま博のような両県にまたがる大きなイベント実施には、両県の緊密な連携が求められる。緊密な連携により、イベントの実施がスムーズになるとともに、イベントの周知、スポンサー募集、運営などが順調に進むものと期待される。

#### （3）何よりも地元市町、民間企業、地域住民の協力理解

しまなみ海道を訪れるサイクリストには、「地元の人が優しい」ことが魅力のようだ。大規模なサイクリング大会開催には、ボランティアも多数必要にな

る。最も重要なこととしては、一時的に交通を遮断することになり、特に地元には大きな負担をかけることである。そのため、何よりも地元の協力理解が求められる。事前に大会実施に向けて地元の合意を得るとともに、協力して大会を成功に導くことが求められる。

以上のような事項が必要と考えられるが、愛媛経済同友会としては、サイクリング大会の開催・運営に関して全面的にバックアップを行いたい所存である。

## 6. 将来に向けて

しまなみ海道は、四国と本州を結ぶ四国三橋の一つであるが、その観光資源としての価値は非常に大きい。そのため、しまなみ海道、あるいは愛媛、広島両県だけではなく、四国全体を巻き込んでいけば、その波及効果はより大きなものになると考えられる。大会に参加するために来訪するサイクリストに、四国のほかの地域を周遊してもらい、四国の魅力を感じてもらえれば、四国の観光の底上げにもつながる。さらには、将来的にはしまなみサイクリング大会を、ツール・ド・四国のような四国全体でのサイクリングイベントに発展させていくことを視野に入れることも可能であろう。

また、自転車道の整備・補修やサイクルトレインの運行など、サイクリストにとって訪れやすく走りやすい環境の整備については、早急に行うことが必要だろう。受け入れ環境の整備により、サイクリング大会参加者が高い満足感を得られれば、次回以降本人だけにとどまらず、家族や友人などを伴っての参加も期待でき、交流人口の増加も図られるものと期待する。

## しまなみ委員会

委員長	関谷 勝嗣	関谷勝嗣事務所	代表
副委員長	坂和 克紀	(株)サカワ	副社長
副委員長	西原 透	第一印刷(株)	社長
副委員長	村上 榮一	サークルケイ四国(株)	社長
	大沢 哲也	日本食研ホールディングス(株)	代表取締役社長
	越智 逸宏	一広(株)	社長
	桑森ひとみ	弁護士法人桑森法律事務所	弁護士
	鴻上 和義	(株)マーク住研	社長
	興梠 安	(株)一宮工務店	代表取締役社長
	藤田 敏子	(株)クック・チャム	社長
	藍場建志郎	(株)日本政策投資銀行	松山事務所長
	伊賀上竜也	(株)パドス	社長
	一色 昭造	石崎汽船(株)	社長
	今井 浩蔵	(株)伊予鉄会館	代表取締役社長
	小倉 早織	(株)小倉葬祭社	代表取締役社長
	久保 素子	久保豊(株)	社長
	佐伯 要	伊予鉄道(株)	社長
	篠原 成行	桜うづまき酒造(株)	社長
	寺園 浩昭	全日本空輸(株)	松山支店長
	新山富左衛門	(株)古湧園	代表取締役副社長
	藤原 英二	(株)エス・ピー・シー	専務
	野本 政孝	(株)サンメディカル	社長
	薬師神 績	星企画(株)	社長
	山本 恒久	えひめ洋紙(株)	社長
	尾崎 英雄	(株)フジ	代表取締役社長
	宮内 隆	(株)愛媛CATV	代表取締役専務
	加藤 喜裕	尚正産業(株)	社長
	徳丸 謙一	(株)愛媛銀行	常務取締役
	伊勢家勝正	(株)伊勢屋商店	社長
	岩本 透	四国システム(株)	代表取締役社長
	妹尾 次郎	正起ガス(株)	社長
	重松 宗孝	重松建設(株)	社長
	高橋 忍	西南開発(株)	代表取締役社長
	山澤 満	(名)山澤商店	代表社員
	中山紘治郎	(株)愛媛銀行	頭取
	兵頭 好喜	大進建設(株)	社長
	小田 美文	日新産業(株)	代表取締役社長
アドバイザー	西 昭比古	(株)愛媛朝日テレビ	プロデューサー